

# ぐ どう 弘 道

## 檀信協だより

発行 日蓮宗埼玉県檀信徒協議会  
〒349-1103 栗橋町北2-5-12 (吉田卓治方)  
TEL (0480) 52-0015

平成16年度寺檀協議会

### 台風の前づく中



菅蒲町  
協議会・  
所長「で妙福寺で  
」は「役員改選  
」の「継承」を

関根宗務所長を導師に法味言上

要後挨拶に立った関根宗務所長は中国の故事になぞらえて信仰の継承の重要性を呼びかけ、「檀信徒の皆さんそれぞれがお題目を次の世代に伝えることが



お説教に聞き入る参加者

平成十六年度寺檀協議会が六月二十一日、菅蒲町の妙福寺で開催され、台風が近づく悪条件のなか、僧俗百二十二名が参加されました。十時三十分より三枝泰英伝道担当事務長の司会により開会し、立教開宗七五〇年慶讃事業として改修された本堂において関根教沅宗務所長を導師に法味言上が行われ、参加者と共に檀信徒協議会の一層の発展を祈念し、併せて先日ご逝去された片口八郎前檀信協副会長の追善回向も行われました。法

ずれも原案通り承認されました。また三枝伝道担当事務長より今年度の護法団参の詳細が発表



高座で説教をされる石川教道僧正

大切です」と話した。その後吉田檀信協会長、来賓として出席した星光諭宗会議員、松永正憲協議員議長による挨拶の後、今回で退任する役員の方々に記念品の贈呈が行われました。引き続きいて妙福寺客殿に会場を移して寺檀協議会が行われ新役員として会長に吉田卓治氏、副会長に岸篤氏、岸昭夫氏が就任した。吉田会長による全国檀信徒協議会の報告、平成十五年度の檀信徒協議会の活動報告並びに決算報告と併せて、平成十六年度活動計画案予算案が上程され、い

道僧正の「お寺を守る私達の信仰」と題した高座説教が行われました。石川僧正は、語り合うこと、話し合うことが失われてしまった現代を、法華経の経文に照らし合わせながらわかりやすく解説し、現代社会においての寺檀の役割の大切さを話されました。また寺院は僧侶と檀信徒がお互いを育て合う場所であり、人を育て心を添える信仰のあり方が大切と説かれました。高座説教終了後、穂山教雄宗務副長の導師による唱題行が行われ、参加者全員が手を合わせ一心にお題目を唱えました。最後に会場寺院の妙福寺穂山住職が



唱題行の導師を勤める穂山教雄副長

されました。昼食終了後再び本堂において、東京都杉並区清徳寺住職石川教

平成15年度活動報告

- ※檀信協役員会・他
- 平成15年5月27日 全国檀信徒協議会 於定徳寺(名古屋市) 会長出席
- 平成15年9月5日 全国檀信徒協議会常任委員会 於宗務院 会長出席
- 平成15年6月20日 埼玉県寺檀協議会 於妙典寺(和光市)
- 平成15年10月23日 役員会 於実相寺(川口市)
- 平成15年10月6~7日 護法団参統一信行会 於孝勝寺(仙台市) 会員多数参加
- 平成16年2月9日 役員会・新年会 於福登美(川越)
- ※「弘道」編集会議・発送
- 平成15年6月20日 第18号発行打合せ於妙典寺(和光市)
- 平成15年10月23日 第19号編集会議於実相寺(川口市)

平成16年度活動予定

- ※檀信協役員会・他
- 平成16年5月21日 全国檀信徒協議会 於宗務院
- 平成16年6月1日 役員会 於常薫寺(栗橋町)
- 平成16年6月21日 埼玉県寺檀協議会 於妙福寺(菖蒲町)
- 平成16年10月 役員会 於 (第三部)
- 平成16年9月27~28日 護法団参統一信行会 於妙国寺(会津若松市)
- 平成17年2月 役員会・新年会 於 (第一部)
- ※「弘道」編集会議
- 平成16年6月21日 第20号編集会議 於 妙福寺(菖蒲町)
- 平成16年9月 第21号編集会議
- 平成17年2月 第22号編集会議

- 『弘道』 第20号 平成16年7月10日発行予定
- 第21号 平成16年11月1日発行予定
- 第22号 平成17年3月10日発行予定

新役員名簿

会 長	吉田 卓治	常薫寺
副 会 長	岸 篤	妙昌寺(川越)
副 会 長	岸 昭夫	妙昌寺(神戸)
理 事	日坂 文男	寶蔵寺
理 事	伊藤 光男	妙仙寺
理 事	藤平 孝	善照寺
理 事	小峰廣太郎	眞淨寺
理 事	野川 幸一	妙福寺
理 事	高梨 久雄	妙光寺(八潮)
理 事	青木 源吉	性蓮寺
理 事	小高 功	本應寺
監 事	荻原 用三	本法寺
監 事	桜井 昭夫	性蓮寺
監 事	伊藤高太郎	妙仙寺
庶務会計	長谷川幸市	妙福寺
庶務会計	石古 宗彦	常薫寺
顧問	関根 教沅	性蓮寺住職
顧問	穂山 教雄	妙福寺住職
顧問	三枝 泰英	妙光寺住職
弘道担当	後藤 是順	正養院住職
弘道担当	吉田 本晃	頭正寺住職
弘道担当	坂爪 快淳	学蔵寺内
弘道担当	仁部 前崇	上原寺内
弘道担当	宮崎 修和	妙行寺内
弘道担当	甘樂 勝純	常薫寺住職

挨拶され無事寺檀協議会が終了しました。

# 仏教質問箱

先日、主人を亡くしましたので、今年が新盆あたりですが、新盆とはどんなことをすればよいのでしょうか。又、お寺で、法事や施餼鬼供養の時にたてる塔婆にはどんな意味があるのでしょうか。

夏も本番になり、益々暑い季節となつて参りました。そろそろ、お盆のことなど考えているご家庭も多くなつてきたと思いますが、今回は「新盆」と「御塔婆」について書いてみたいと思います。

新盆とは故人の四十九日の忌明け後初めて迎えるお盆で、「初盆」「ハツボン」「新盆」「シンボン」などと呼ぶこともあり、四十九日の忌明けより前に、お盆を迎えた場合は、その年ではなく、翌年のお盆が新盆となります。

新盆の時は親戚、知人、近親者を招き僧侶に読経してもらい、その後、仏様の供養という意味で、参加者全員で食事をします。

また、お盆の間は仏壇の側や軒先に盆提灯を飾る習慣があります。これは提灯の明かりによつて精霊が迷ふことなく家まで来てもらえるようにという意味が込められています。

特に新盆を迎えられる家では、無垢で清浄を表す白木で作られた新盆提灯を用意します。この

際、お盆の前に親戚や知人から送られる習わしもあります。意味は盆提灯と同じですが、一年限りでお盆が終わつたら、菩提寺に納めます。

正式には「盂蘭盆会」といいまして、梵語の「ウランバナ」の音訳です。意味は「逆さまに

つられた苦しみ」と訳すそうです。お釈迦様の弟子の目連尊者が『餓鬼道』に墜ちて苦しんで



いる母を救うためにお釈迦様の教えの通り、十万の僧侶を招いて供養しました。その功德によ

つて母は『餓鬼道』から救われたとされています。これが日本に伝わつてお盆の行事が行われるようになりました。お盆の時期は七月に行う所と、八月に行う所があります。

期日は十三日（迎え火、御先祖様を煙に乗せてお迎する）から十六日（送り火、御先祖様の足下を明るく照らしてお送りする）（関東では十五日に送り盆をする地域が多いようです）新盆の場合は早めに準備しておきましょう。

又、塔婆のことを「卒塔婆」ともいうようにこれはインドの「スツーパー」という言葉の音を漢字に当てたものです。

お釈迦様が亡くなられたときに、遺体は火葬され、舍利（お骨）は八つの王国に分けられました。これを舍利八分といいますが、八つの国ではそれぞれで、舍利を安置し供養しました。これが「スツーパー」です。その後、塔自体がお釈迦様の御遺徳をしるぶ象徴となり、各地へ広がつていきました。塔の型は、インドから中国へ伝わるにつれて、材質も様式も変化し、日本では五重塔にみられるような木造建築が定着しました。仏教では、宇宙の万物は地、水、火、風、

空の五要素からなると説かれ、これを「五大」「五輪」といいます。この「五輪」を方、円、三角、半円、宝珠の形に表し、石で下から積み上げていったのが「五輪塔」と呼ばれるもので、法事の時にあげる板塔婆はこの「五輪塔」の形をうつしたものでもあります。従つて、御塔婆は仏舍利塔と五輪の教えを形に表現したものです。

日蓮宗では板塔婆の表に『南無妙法蓮華経』のお題目を書きます。『法華経』には「法華経のあるところは、樹の下でも、山でも、谷でも、野原でもどこでも塔を建てて供養しなさい、そこは諸仏の道場であり、お釈迦様のおられるところだ」と塔を建てて供養することを説かれております。塔婆を建てる功德をもとにした、亡き人への追善供養のためになることなのです。この御塔婆は仏様、御先祖様へのお供りでもあります。御塔婆にかかれてある文字は、仏様への挨拶ともいえます。この一枚の板の中に、量りしれないほどの功德ふくまれているのです。又塔婆を建てることによつて、故人の成仏、回向はもとより、建てた人へも功德となつて回向されるのです。

今、私共の寺院では

# 新本堂山門を改築

富士見市 智永山 性蓮寺

日蓮大聖人立教開宗七五〇年をお迎えするに当たり、宗祖への報恩、歴代上人への報恩の事業として、この度平成十五年十月に新本堂の完成を見、十一月二十二日新本堂落慶天童音楽法要を厳修致しました。

旧本堂は、当山第十三世理性院日修上人代の享保年間に再建されたもので、歴代住職が手を入れて修理維持してきましたが老朽化激しいため、総代世話人護持会役員会に諮り、五ヶ年計画を以て改築が決定しました。これを受けて青木源吉氏を会長に本堂建築委員会を組織し、資金の勸募と建物の設計大綱を定め活動を開始しました。経済不況のさなかにあつて、檀家信徒はもとより、有縁の皆様からも浄財を喜捨して頂き、勸募の目標額をほぼ達成することができました。

工事は平成十四年一月に旧本堂を解体し、二月二十八日地鎮祭、十月一日上棟式、平成十五年十月二十九日御本尊を遷座し

奉り、二年三ヶ月を以て魔事魔障無く無事円上致しました。

現住職による、境内整備は昭和四十四年にはじまり、日蓮大聖人第七百遠忌を挟んで、客殿庫裡新築、山門移築、鬼子母神



立教開宗750年記念事業で新築の本堂

堂新築、稲荷堂新築、鐘楼堂新築、境内地整備、宗祖銅像建立、水子観音及び六地藏造立、墓地拡張工事等を行い、今回の本堂並びに山門改築を以て、寺観を

一新致しました。

山門も改築



「これからも、立派にできあがりました本堂を「お題目修行」信仰の道場として、「ご先祖様供養」の場として活用し、

ますます檀信徒と共に精進してまいりたいと存じます。『は結びました。』



旧本堂



★ 先月、無事に寺檀協議会も終了し、新年度の活動に向け、気持ちの一つにして前進することとなりました。ひとえに、檀信徒の皆さまのご尽力と、改めて感謝する次第です。

● このほど、六名の役員の方が退任されました。長い間、大変ご苦勞様でした。新たな役員の方々とも、共に実りある会となるよう、力を惜しまず励んでまいりたいと存じます。

◆ さて、今年の護法団参は9月27、28日に会津の妙国寺と決まりました。皆様のあふれる笑顔とともに、ああ、よかった、という統一信行会にしたいと願っております。

■ 新聞の記事に、ある教育研究会の調査で首都圏の小学生四百人に「人は死んでも生き返るか」という質問をしたところ「生き返る」と答えた児童が三割いたそうです。

最近の未成年者による事件からも、死に対して想像することが出来ないのではと感じます。生と死の問題を避けるのではなく、子どもたちに教えることが大切だと思います。